



Save the Children

『子ども参加における、
子どもの「安心・安全」の確保のための
自治体職員向け勉強会』

の開催について

2023年9月

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



開催概要

●日時：2023年8月31日（木）10:00～12:00、14:00～16:00

●申込自治体数：41

●プログラム：

■10:00（14:00）～ 開会・ご挨拶

セーブ・ザ・チルドレンアドボカシー部長 堀江由美子

■10:05（14:05）～ 子どもの権利・子ども参加について

■10:15（14:15）～ 安心・安全な子ども参加のための確認ポイントについて

■10:35（14:35）～ 安心・安全な子ども参加について

■10:50（14:50）～ グループワーク（①政策決定者との対話、②アンケート）

■11:20（15:20）～ 全体共有・質疑応答

■11:40（15:40）～ 全体質疑応答

■11:55（15:55）～ お知らせなど・閉会

事前アンケート結果の概要

※参加申込をした41自治体の職員56名からの回答を基に作成

子ども参加の取組みの段階

Q. 現在何らかの子ども参加の取組みを行っていますか？



Q. 行っている場合、その形態は？

取組みの形態	実施自治体の数
対面での会議体	16
オンラインでの意見聴取	4
その他	10

Q. 「安心安全な子ども参加のための確認ポイント」について、具体的なイメージが湧きにくい項目や、内容について質問したい項目はありますか？

「安心・安全」の考え方	企画	意見聴取の方法	その他
安全・安心な子ども参加とはどのような視点なのか。個人情報保護なのかそれとも個人の尊厳なのか？	参加する子どもたちの年齢層の幅が広い場合に、どのような会議体の運営が良いのか。	大人のきく姿勢について。子ども施策と直接関係ない行政職員との上手な共通認識の持ち方など	子どもたちの意見に対してフィードバックをする際の具体的な方法
	募集・参加条件のうち、同意・情報管理について、保護者同意書の作成のポイントについて知りたい。	具体的に子どもから意見を引き出しやすくする方法	『子ども間の衝突・対立があった場合に、まず子ども同士の解決を促している』とあるが、子ども同士だけだと力関係や言語化の能力から自身の意見を伝えることが難しい場合もあるのではないか。
	子どもが意見しやすい環境やきっかけ作りをするにはどうすれば良いか？	「子どもの年齢や発達段階、特性に配慮をしている」とありますが、この年齢にはこういった配慮をした方が良い、等の基準が難しく感じる	
	子どもの意見表明について、措置児童等以外も含めた形がよいのか。個別にやるべきか、複数でやる形がよいのか		

事後アンケート結果の概要

※参加者55名のうち31名からの回答を基に作成

Q. 今回の勉強会で、「子ども参加」と「安心・安全な子ども参加」について改めて気が付いたことや思われること、また、理解が難しかったことがあればお書きください。

日常的なまたはあらゆる参加形態に共通の留意事項	対面イベント実施時	アンケート実施時
<p>子どもの理解はもちろん、子どもの特性を踏まえた配慮や、行動規範等について主催者側や関係者の共通理解を得ることが大切だと感じました。</p>	<p>同じ市内であれば、顔を見てその場で意見が言えたりできる対面がいいと思う。</p>	<p>一般的なことだと思って、アンケートの調査項目に設定したり、直接意見を聴いたりするのは、子どもによっては重大な心の傷をつけてしまう可能性があることがわかりました。</p>
<p>安心・安全な子ども参加は、日々意識をしているつもりではいるが、文字にして書き出してみると膨大な項目数であり、自分で気が付かないことが何点か含まれていたこと。</p>	<p>スタッフと子どもの距離感について、注意が必要という視点は勉強になった。</p>	<p>行政がアンケート実施をする際、回答率を上げようとしやりきになってしまうところがあるが、意見表明は任意である、参加するよう圧力をかけてはならないことを再確認できたのが非常に大きい収穫でした。</p>
<p>セーフガーディングの視点の徹底の大切さに気づいた。自分にはスタッフにそんな人はいないとの思い込みがなんとなくあった。</p>	<p>子どもに参加させる形にならないように留意する必要がある一方で、参加できることにも限定をしていかななくてはいけないジレンマが生じた。</p>	<p>調査を実施するときの配慮について気がついたとともに、すべてを網羅する難しさがあると感じた。</p>
<p>参加しないことも意思表示のひとつであるが、「参加したいけれどできない」という状況が減らせるように配慮することも必要と感じた。</p>	<p>ファシリテーターの重要性は理解できたが、人手不足のために実現することが難しい。</p>	
<p>通常の子どもイベントにおいて留意している事項の程度でしたので特に理解が難しかったことはありません。</p>		

Q. 「安心・安全な子ども参加のための確認ポイント」を作る場合、ハードルになりそうなことはありますか？

● ある	9
● ない	4
● わからない	18



Q. 具体的にどのようなことがハードルになりそうと感じますか？

- 一概にフィードバックが大切といっても何に対してどこまで返すのが妥当か判断が難しい。
- 声をあげにくい子ども、意見表明が不得手な子どもの意見をくみ取る方法など。
- 人員の配置、会場の選定など、自分の業務環境で対応できない（予算の関係など）ことが前提になって話が進むと、実際にはできないことが生じてしまう。また、行政のワークショップなどは子どもと初めて会うことも多く、どのような子かわからないまま進めてしまうので、実はマニュアル通りに進めると子どもの成長を阻害することがあるのではないかと感じる。
- 職員や関係者の本質的な理解
- 子どもの意見のフィードバックに関して、行政でできることできないことがあり、すぐにはできないことに対してどのように子どもが満足するフィードバックを行うかが難しいと感じる。
- 人員体制とワークショップ等の技術等
- 例えばですが、子どもの権利に対する各関係機関の理解や連携の希薄さです。

Q. その他勉強会の内容などについて、ご質問やご意見などがあればご自由にお書きください。

貴重な学習の機会をありがとうございます。私が考えるに、マニュアル・チェックリストは子ども参加の裾野を広げるために大切なことかと思いますが（子ども対応に不慣れな職員が多いので）、一步先のことを考えると、子どもの状況をよく観察して対応することが必要で、その見極めが肝になってくることが大切になると思います。例えば「言いたくないことは言わなくてよい」のですが、発言をしない子どもも、もしかしたら今、発言をしようとしている、一步踏み出そうとしているのかもしれない。これを見誤るとせつかくの子どものチャンスを逆に潰してしまうことにもなってしまふ、そんなこともあるかもしれません。つまり、マニュアル・リストを十分参考にしつつ、目の前の子どもの様子を観察して対応する柔軟な姿勢が大切だと考えているところです。

知らなかった内容の講義があり勉強になりました。また、グループワークでは、他県の方々の意見を聴くことができ、県外の方との交流も新たな気づきにつながるので必要だと改めて実感しました。このような勉強会を企画してくださり、ありがとうございました。

子ども参加の取組について、まだ具体的なことは未定ですが、配慮が必要な様々な点に気づくことができ、これから検討を進めていく上で勉強になりました。

子ども参加に関する取組を現在行っている自治体を主な対象として、お互いの取組の中で困っていることや取り入れた事例などについて交流できる勉強会が欲しい。

このような有益な勉強会に無料で参加させていただき、感謝しております。当県では、職員が1～3年で配属異動となることから、同じテーマで良いので、毎年実施していただければありがたいと思いました。

アンケート結果まとめ

- 今回の自治体勉強会では、すでに何らかの子ども参加の取り組みを行っている自治体からの参加が若干多かった。そのためか事前のアンケートでは、企画、子どもからの意見聴取方法等に関し、より具体的な問題意識を反映した質問が提起された。
- 「安心・安全な子ども参加」、セーフガーディングについては、それぞれの自治体において日常的に留意されているようだが、その対象範囲の広さを新たな発見ととらえた参加者や、マニュアルにそって行動するだけでは対応困難な事例もあることを指摘する参加者があった。
- 継続的な自治体担当者間の交流の場の設定、「安心・安全な子ども参加」を実現するための啓発活動・人材育成の必要性が今回のアンケートからも見てとれた。

